

令和元年度

第2回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 令和元年12月5日(木)午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所 6階 研修室A・B
3. 議題 (1) 令和2年度重点的に取り組む教育施策について
(2) 教育委員会の課題について
 - ・今後の防災対応(市と学校の連携)
 - ・文化、スポーツ活動の振興
4. 出席者 菊地啓夫市長、百井崇教育長、佐藤雅晴教育長職務代理者
小林修子委員、南館公雄委員、氏家真由美委員
5. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、大友彰総務部長、新妻敏幸市民経済部長
高橋広昭健康福祉部長、星幸浩建設部長、及川浩市参事兼学校教育課長
沼田輝明生涯学習課長兼スポーツ振興課長、遠藤大輔政策企画課長
6. 欠席委員 なし
7. 傍聴者 なし
8. 本会議の書記
山下真理子教育総務課主幹兼総務係長
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後4時40分
11. 議事録署名人
佐藤雅晴教育長職務代理者
12. 事務局職員
石垣茂教育次長兼教育総務課長事務取扱
山下真理子教育総務課主幹兼総務係長
13. 議事の経過
以下のとおり

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

只今より令和元年度第2回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、菊地市長より開会の挨拶をお願いします。

菊地市長

第2回岩沼市総合教育会議へ御出席いただき、ありがとうございます。今の時期ですと、意見交換をさせていただきながら、来年度予算に反映させたい思いがあります。様々な課題解決にも取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

中学校の部活動指導を外部の専門家をお願いするため、岩沼市、仙台大学、市内体育施設指定管理者代表企業(株)フクシ・エンタープライズの3者により協定を結びました。マスコミでも関心を持って取材に当たられたようです。市としては、教員の働き方改革につながるものと考えています。時間外労働の上限規制が年360時間とすることに法改正されました。教員の勤務時間がそれを超えないようにしながら、部活動もしっかり取り組んでいただきたいと思います。協定の中身は、子どもたちの運動の拠点作り、部活動、二つの視点があります。まず、子どもたちの運動の拠点作りとして、市が方針を打ち出し、総合体育館や陸上競技場において、学校に代わり市が競技指導を行います。さらに、週1回、仙台大学から学校側の求めに応じて指導者を派遣し、部活動の指導をしてもらいます。半年または1年間の評価をして、現場側との議論を重ねながら、事業の改善をしていきたいと思っております。スポーツ庁から部活動支援のガイドラインが示されていますが、岩沼市の取組はその枠をはみ出しているわけではありません。1番先に試験的に取り組んだ、新しい部活動の形として注目されています。

10月12日から13日にかけて、超大型の台風19号により、岩沼市でも被害を受けました。今後の災害時に向けて避難しやすい体制作りを考えると、避難所として学校の役割が大切になってきます。今回は夜間の避難でしたが、もし日中であつたら、子どもたちを守るべき学校に避難者がなだれ込んできます。避難の仕方を詰めておかなければ、いざというときに動けなくなると考えられます。大人数を受け入れられる大きな施設と

なると、学校しか無いので、学校での受け入れ体制も考えていかなければなりません。台風 19 号で最も心配したのは阿武隈川でした。避難の判断基準となるのは 7m90cm の水位なのですが、時間と共に水位が徐々に上がってきて、7m19cm になったとき、決壊が起きることを前提に、厳しい中で避難の判断をしました。決壊した場合、ハザードマップによると、岩沼は 3m 水没することが想定され、そうなれば平屋の集会所では耐えられないことから、学校を避難所として開設しました。今後、学校と連携しながら、避難所のあり方や避難の仕方について、日中・夜間、冠水しているとき等、様々なケースについて研究したいと思います。

市の方針に沿って新年度予算を作成中です。教育委員会からも予算の要望がきております。現在、財源限度額と要望額を比べると 30 億以上多いので、削って圧縮しています。教育委員会の意見をお聞きしながら前に進めたいと思います。教育環境を充実させたいという思いは変わらないのですが、新しく ICT 関係の様々な課題が出てきています。日本の ICT 分野は、世界の中で遅れ気味のため危機感があり、数年かけて ICT 環境を充実させようとする計画があります。その動きを見ながら岩沼市でも予算措置していきたいと思います。

教育指導要領が変わり、小学校から外国語活動が始まってきたので、市では内容を見ながら対応を考えたいと思います。

国は、ICT を充実させ、IoT やあらゆる情報を教育に活用していきたいと考えています。しかし、まだ環境が不十分なので、主要都市に高速通信網を整える動きがあります。ICT 関係の大きな動きがあるので、委員の皆様も関心を持って見ていただき、アドバイスをいただければと思います。国では Society5.0 という新しい社会の形を提唱し、SDGs という持続可能な開発目標を採択しています。17 の大きな目標と、それらを達成するための具体的な 169 のターゲットで構成されており、それに基づき事業を進めていくことになります。そこには、様々な教育、人材育成が含まれています。これらを見ながら市の事業を進めることが、令和 2 年度予算の中心になります。

財政状況が厳しい中ではありますが、蓄えを活用しながら環境整備を進めていきたいと思っております。コミュニティセンターの建設を検討しておりますし、市民会館の空調設備の改修を来年度に行う予定です。

東京オリンピックが来年7月末に始まります。岩沼市でも参加したいと動いています。5月から6月に聖火リレーがあるので、子どもたちにも参加してもらいたいですし、できればオリンピック会場に子どもたちを連れて行きたいと思っています。チケットの調達も進めています。できるだけ、オリンピックの空気を吸わせたいと思っています。岩沼市は、ありがとうホストタウンとして国から認定を受け、南アフリカ共和国を応援しています。オリンピックを通して交流を続けていきたいと思っておりますので、その都度、情報をお伝えしますし、子どもたちにもその空気に触れてほしいと思っております。

5年前にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的に、それぞれの自治体が提案して予算を獲得し、創生事業を行うものです。来年度から第2期の創生事業がスタートします。12月に閣議決定される予定であり、人口対策や経済対策を含めた地方創生の方針が示されるので、それに沿って2期目の戦略書を作らなければいけません。戦略書には、子育てや教育も手段の一つとして入れることを考えています。少子化対策が柱の一つになりますので、教育を軸に人口を増やしていくことを考えています。本質的な住みやすさ、教育、子育てに力を入れていきたいと考えています。今後5年間、この計画に沿って景気対策、人口対策等の事業を行っていくようになります。

御意見をいただきながら進めたいと思っておりますので、ぜひ御提案をお願いします。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

続きまして、教育委員会を代表しまして、百井教育長より挨拶をお願いします。

百井教育長

本日はありがとうございます。教育委員会としても、多くの施策を行ってまいりました。皆様から施策の方向性について御意見をいただきたいと思っておりますし、市全体で進め

るために、各部の御協力もいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

それでは会議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長は、運営要綱第4条の規定により、市長が務めることになっております。ここからは菊地市長に会議を進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

菊地市長

規定により議長を務めさせていただきます。はじめに、議事録署名人を指名させていただきます。今回は佐藤委員に署名をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

議題(1)令和2年度重点的に取り組む教育施策について、事務局から説明してください。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

教育総務課分について、今年度の報告も含めて説明させていただきます。

これまでに引き続き、小・中学校における学習環境の整備を進めておりますが、今年度は特に重要な整備を建設部の協力を得て実施しております。まず、小・中学校普通教室等へのエアコンの整備を207教室へ246台設置しました。岩沼西小学校屋内運動場の長寿命化改良工事については、まもなく解体工事に着手いたします。岩沼小学校体育館照明のLED照明への改修工事、岩沼中学校のトイレ洋式化改修工事も順調に進んでおります。ソフト面につきましては、委託契約期間満了に伴い、中学校給食調理業務の新たな受託業者を決定し、問題なく給食事業を進めております。

令和2年度においても、教育環境の整備を着実に進めてまいります。継続事業の岩沼西小学校屋内運動場の長寿命化改修工事のほか、玉浦中学校トイレ洋式化改修工事を予定しております。新たに、国土強靱化関連事業の防災機能強化事業として、玉浦小学校体育館天井改修工事を行います。県の環境交付金を活用した、岩沼南小学校体育館照明のLED化を行います。ソフト面として、学校のICT環境整備の一環として、校務支援システムの導入を進めていきたいと思っております。また、令和2年12月で小学校給食調理業務の委託期間が満了になるので、新たな受託業者の選定を進めていきたいと思っております。

及川参事兼学校教育課長

まず、学校教育課の今年度事業について、例年と異なる点を重点的に説明させていただきます。

「夢やあこがれを育む教育活動の展開」では、未来にはばたく学校づくり助成金を活用し、岩沼西中学校の2年生が被災地を見る活動として、気仙沼市を訪問してきました。西地区に住む子どもたちは、東日本大震災の被災体験は県南部の子どもたちに対して薄く、時間も経っていることから記憶も薄らいでいます。そこで、気仙沼市立階上中学校と交流しました。それぞれの学校で行っている防災学習をオーバーラップさせ、現在、これから学校でどのような防災学習をしていったら良いかまとめているところです。

「一人ひとりを大切にした生徒指導と心のケアの充実」では、本年7月に「あいるーむ」を勤労者活動センター内に開設いたしました。現在、19名の通所があり、当初予定していた部屋が手狭になるほど、嬉しい状況になっています。通所していた子どもたちのうち2名が学校復帰を果たし、大きな成果をあげていると思います。

「国際理解教育・外国語教育の充実」では、現在5名のALTを配置しております。授業だけでなく、日頃からのコミュニケーションが取れるよう、校外学習等の学校行事にも一緒に参加することができるようにしました。

「学習習慣の確立と定着を図る取組」「一人一人のニーズに応じた支援の充実」「家庭・地域社会に開かれた信頼される学校づくり」については、例年通り進み、学校からは好評を得ている事業であります。説明は割愛させていただきます。

次に令和2年度重点的に取り組む教育施策について説明させていただきます。予算との兼ね合いがありますので、現在の予定ということで御理解ください。

教育環境の整備として、1点目は現場への人員配置です。小中学校指導助手、特別支援指導助手、特別支援教育支援員、ALTの配置は、今年度より1名ずつ増員した形で予算要求しています。指導助手・支援員配置の事業は、全ての学校から好評を得ている事業ですので、一層の充実を図りたいと考えています。また、ALTは現在5名配置してい

ますが、将来的には各校1名ずつ配置できないかと考えております。それは、ALTと児童・生徒のコミュニケーションを日常的に取れる環境にしたいとの願いからです。同じく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについても、これまでどおりの人員配置をしたいと考えております。

2点目はお金の面からの支援です。岩沼市では校長裁量で執行できる、総合的学習の時間・特色ある学校づくり推進事業助成金がございます。特色ある学校づくりに役立つようなお金の使い方をしてほしいと思います。

3点目は物の面からの支援です。ICTの整備については、国から1人1台の端末整備をする話が出ています。岩沼市ではこれまで、宮城県のICT活用の事業をリードしてきた自負がそれぞれの教員にあります。タブレットの整備は授業改善に確実に繋がっており、そういったことが今年度の全国学力・学習状況調査の結果などに成果として表れていると考えています。校務支援ソフトの整備等に力を入れることで、教員の業務が軽減され、その分余裕ができた時間を子どもたちと向き合う時間に使うことができます。平行して、先生方の研修の時間に充てたいと考えています。

4点目は場の提供です。「あいる一む」では、不登校児童生徒の居場所づくり、「学び塾」では、学習習慣の定着を目指した学習環境の提供を継続したいと考えています。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

生涯学習課の今年度の事業について説明させていただきます。

「協働教育の充実」として事業を順調に進めております。その中で、松尾芭蕉「奥の細道」いわぬま二木の松俳句大会については、今年度も冬季休業中の自由課題として、来年1月に市内小学校5、6年生及び中学生を対象に作品を募集し、昨年同様の約2千点の応募を見込んでおります。作品は、市民図書館2階のギャラリースペースに全て展示することとしております。

「文化財や歴史資料の調査と保存・活用」についてですが、その中の原遺跡については、11月1日より第4次調査として、常磐線線路の東側において発掘調査を開始してお

ります。現在のところ、昨年のような大きな成果は出ておりませんが、多数の遺物が発見されておりまして、12月18日に文化庁の担当者の方に視察をしていただく予定となっております。12月末に埋め戻しを行うこととしております。その他、学校へ出向いての出前授業、ふるさと展示室を活用した歴史学習及び企画展等を開催いたしております。

次に、令和2年度の生涯学習課の施策についてです。今年度同様、協働教育の推進ということで、のびやか教室を子どもたちの放課後の居場所づくりのために継続、コラボスクールとして、里山体験学習を学校からの要望に応える形で継続したいと考えています。さらに、「岩沼に愛着を持つ人材育成事業」として「ふるさとの味はらこ飯の学習」、「松尾芭蕉「奥の細道」いわぬま二木の松俳句大会」の2事業を継続して開催できるよう予算を計上しております。

市史編纂事業につきましては、刊行計画に沿って、令和2年度で「通史編：近世」の刊行をするよう作業を進めております。

埋蔵文化財に関しては、原遺跡の第5次調査の実施ということで、常磐線線路の西端の辺りを発掘したいと考えております。

社会教育施設の整備として、市民会館の空調設備の改修に着手したいと考えています。工事期間は、令和2年12月から令和3年6月の7ヶ月間を見込んでおります。

生涯学習課からは以上です。

引き続き、スポーツ振興課の今年度の主な事業について申し上げます。

「スポーツ施設の整備と活用の促進」について、大きなところとしましては、市民会館と総合体育館の間にあります少年スポーツ公園について、エアポートマラソン直前の11月29日に、新しい遊具の設置が完了しております。また、第28回いわぬまエアポートマラソン大会は、指定管理者へ移行後一番大きなイベントでしたが、大きな問題もなく無事終了いたしております。

「部活動支援事業の定着及び促進」についてですが、本年5月から体育施設の指定管理者であります(株)フクシ・エンタープライズの方で、部活動支援事業を本格的にスター

トさせております。個人競技については、「拠点事業」として、総合体育館及び陸上競技場を活用し、ソフトテニス・バドミントン・卓球・陸上競技の4競技について、高いレベルの指導者を確保し指導を行っています。団体競技については、「派遣事業」として、各中学校の要望を伺ったうえで、岩沼中学校及び西中学校ではサッカー部、北中学校では野球部、玉浦中学校では女子バレー部に、専門の指導者を派遣し指導を行ってきております。どちらの事業も進めて行く中で、継続的に安定した指導者の確保が難しいという課題がありました。

そこでこの度、東北唯一のスポーツ大学であります仙台大学及び部活動支援事業を進めてもらっている指定管理者の代表企業㈱フクシ・エンタープライズと岩沼市の3者による「中学校部活動支援事業」の連携協定に係る調印式を12月3日に行いました。連携協定を締結することで、仙台大学の学生指導者を継続して派遣していただけることになり、課題の解決に向け、一步踏み出したところです。この協定の意義としましては、指導を受ける生徒側にとっては、専門性の高い学生アスリートから直接指導を受けることで、レベルの高い技術や技能を間近で学習できること、中学校側にとっては、顧問の先生の負担が減り、教職員の多忙化解消のひとつとなり、教職員の働き方改革の推進につながることで、大学・学生側にとっては、将来、教職の道を目指している学生の指導実践の場として有効であることなどが挙げられ、いずれの側にもメリットがある取組と考えております。今後、この取組が定着することで、これからの新しい部活動のモデルになっていくことに期待するものです。

次に令和2年度重点的に取り組む教育施策についてです。

「指定管理者による体育施設の円滑な管理運営」につきましては、これまで取り組んできてもらいました共同事業体に対し、今後も安全安心な施設の管理運営、市民サービスの向上等について、チェック体制を充実させていきたいと考えています。

「スポーツ施設の整備と活用の促進」について、今回、朝日山公園野球場とテニスコートの改修に着手したいと考えており、必要な予算について計上しているところです。

「部活動支援事業の定着及び促進」については、指定管理者及び仙台大学等との連携を強化し、現在行っている「拠点事業」及び「派遣事業」の競技を増やしつつ、参加人数に合わせた指導者を増員していきたいと考えています。

菊地市長

続いて、議題(2)教育委員会の課題について、事務局から説明してください。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

教育委員会の課題について、2点挙げさせていただきました。

まず、今後の防災対応についてですが、市と学校の連携が重要になってくると思われ
ます。教育委員会所管の指定避難所としては、小中学校8校の体育館が位置づけられて
おり、防災倉庫の他、毛布や水などの備蓄品も配置されています。平常時の備蓄品管理
や訓練を行う他、緊急時には必要に応じて県費の教職員にも御協力いただいております。
毎年度、各校から災害時協力員2名を選定していただき、避難所開設時に支援をいただ
いております。今後、これまで以上に学校管理者として、災害時の異常確認や防災対策、
緊急時の校舎使用を円滑に進める流れを作っていかなければならないと考えています。
浸水被害がある場合、体育館だけでなく、校舎の利用も考える必要があるかと思いま
す。先進的な取組として、玉浦中学校で行っている津波避難訓練では、既に教室を地区
ごとに割振っており、地域コミュニティを意識した避難を想定しています。市内各校に
おいても、そういったことを考えていかなければならないと思います。

及川参事兼学校教育課長

学校におきましては、各校に「学校防災マニュアル」がございますが、市の防災マニ
ュアルの見直し、避難勧告に関するガイドラインを受け、各校で改訂作業を行っていま
す。学校周辺の地理的状况により災害特性が異なりますので、その特性に合わせたマニ
ュアルの見直しを来年度に向けて進めています。また、現在は「学校防災マニュアル」
ということにしておりますが、防災面に加えて、学校で起こる様々な事故を想定した「危
機管理マニュアル」ということで整備を進めていきたいと考えています。

今年度の市の総合防災訓練において、学校と町内会が連携をとって訓練に参加したという所が多くございました。こうした取組を振り返り、反省しながら、来年の訓練に活かしていければと考えています。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

課題の2つ目、文化・スポーツ活動の振興についてです。

まず、岩沼市民文化芸術祭についてです。今年度で31回目を数える恒例イベントとして市民に定着しているものと思われませんが、近年、参加団体の固定化、マンネリ化が課題として挙げられます。表に5年間の参加団体と来場者数を示しました。29年度から参加型の企画や参加団体による合同企画、駒澤大学高等学校チアリーディング部によるゲスト出演など、マンネリ化の解消を図っておりますが、参加団体には特段の変化が見られていない状況です。参加団体と来場者数を増やす取組を事務局と実行委員会で検討していく必要があると感じています。

部活動支援事業について、「継続的な指導者の確保」につきましては、12月3日に岩沼市・仙台大学・指定管理者の3者で締結した「中学校部活動支援事業」に関する連携協定により、仙台大学の学生アスリートを継続的に派遣してもらうことで指導者の確保をすることができたと考えております。また、これまで運動部の支援をしてきたところですが、今後は文化部の支援も考えていく必要があると思います。生涯学習課としましては、まずはブラスバンド部への支援について検討しているところです。

菊地市長

各課からの事業説明を受けました。内容によらず、御意見をいただきたいと思います。

氏家委員、いかがですか。

氏家委員

部活動支援事業について、文化部への支援も確かに必要であると思われました。拠点型として指導するのであれば、楽器の移動が課題になると考えられます。

百井教育長

全体の指導ということではなく、各楽器のパート毎に集めて、専門家に指導してもらい、技量を上げることを考えています。

小林委員

学校に勤めていたとき、木管楽器パートの指導者、金管楽器パートの指導者というように、顧問の先生が外部の指導者を頼んでいるのを見ていました。そういった形で支援できると思いますし、そうなれば学校としてはすごくありがたいと思います。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

今のところ2通りのイメージがあります。1つは拠点型として、市民会館の中ホールに移動の簡単な、例えばトランペットの生徒を4校から集め、そこに専門家を招くことを考えています。もう1つは派遣型として、学校に大型楽器の指導者を招くことを考えています。

菊地市長

拠点型はいつも使っている楽器を持って、一箇所に集まるのですか。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

小さな楽器であれば自分で運搬できますので、拠点施設に生徒を集めることを考えています。

菊地市長

やっけていきながら、改善していくようにすれば良いと思います。

小林委員、お願いします。

小林委員

部活動支援事業が具体的になってきて、ありがたく思います。指導者と顧問の先生がうまく連携をとって進めていただきたいと思います。部活動は、技術の向上を目指すのはもちろんですが、人間関係づくりも大事です。時にはこじれることもありますが、その人間関係は社会に出たときにとても役立つものですので、個人的な支援だけでなく、チームとしての指導が大切ではないかと思います。団体種目へも指導することになり、

事業が進歩してきたと感じています。団体種目の指導をこれからも大事にしていきたいと思います。

異年齢集団や地域とのかかわりは、これからの社会でとても大事になると思います。防災に関しても、縦のつながりの中で整然と動けるかどうかは避難所運営のポイントになってくるのではないのでしょうか。縦のつながりの教育を私たちも考えなければいけないのではないかと考えておりました。最近、新聞や様々な資料の中に「イエナ教育」をよく目にします。小規模校のように、複数の学年が一緒に学習する形を試行している学校もあるそうです。異年齢交流が希薄になっているためなのだと思います。中学校では部活動、小学校では縦割り活動をしています、それが地域にもつながっていけば尚良いと思います。避難所では人間関係が大事です。縦のつながりができ、快く避難生活を送れたら良いなと思います。物資も大事ですが、人との心のつながりによって立ち直る面もあると思います。

菊地市長

今回の市議会定例会では、一般質問に立たれた9名中7名から災害に関する質問がありました。趣旨は皆「市でどうするのか」という聞き方でした。市では市民一人一人に声掛けをして避難所に案内することはできません。地域で声掛けをして、早めに避難していただくしかない、行政だけではカバーできませんとお答えしました。お互いに声掛けするなど、地域で立ち向かうことが大事です。要支援者が個人情報を出したくないとして拒否した結果、孤立し、命の危険につながっていきます。隣近所との付き合いが希薄になっていることを感じますし、横のつながりだけでなく、縦のつながりも大事だと思います。防災訓練の際などに地域で話していきたいと思います。

南館委員、お願いします。

南館委員

指定避難所として小中学校が主になるということですが、集中して大勢避難してきたときには立ち行かない可能性があります。基本は、各自が備蓄し、逃げる場所を家族と

決めておくことだと思えます。地震で倒れたものの下敷きになったり、ストーブから発火して大火事になる恐れもあるので、日頃から点検し、皆で声掛けをして必要なことをしていかなければいけません。食料や水の備蓄は学校にもありますが限度があります。

いじめ問題、不登校、さらには鬱病になって自死という最悪のパターンを防ぐためにも、常に子どもたちに目を向けてほしいと思えます。何が効果的か考えると、真実を教えてくれる講師から体験談等の話を聞くことだと思えます。話を聞いて、怖さと共にそういったものを実感したときに「止めよう」と思うのではないのでしょうか。講師を探すことも考えておかなければいけないと思えます。竹内昌彦先生の講演を聞く機会があったのですが、いじめの体験談や命の大切さについて、話を聞いていると何度も涙がでてきました。本当にやってはいけないと、子どもたちに心底震えるような気持ちで聞いてもらおうと、いじめは皆がやらないようになるのではないかと思います。そういった支援を考えている奉仕団体もありますので、講師を呼んで、話を子どもたちに聞いてもらい、ビデオを利用するなどして繰り返し伝えることが、子どもたちが命の大切さを分かることに効果があると思えます。

大友総務部長

避難所の関係ですが、学校と協力をさせていただいており、去年からは全学校で防災訓練に参加していただきました。今年の訓練では、自宅にいるときに災害が起きたことを想定し、住民と一緒に避難する訓練を行った学校もありました。中学生が避難者の受付をしてくださったところもあったとのこと。実際の災害が、土日だったら、授業日だったら、と様々な想定をすることが課題になりますし、生徒さんや先生方との協力関係を持って実施することも今後の課題になると思えます。

岩沼では、自主避難所として開設する場所は、カーペットやテレビがあり、できるだけリラックスできる施設からスタートしていますが、そこが一杯になると学校体育館を避難所として開設するようになります。体育館は板張りですので、一時的には良いのですが、長期的にはパーテーションなどの装備を整えていく必要があります。また、スマ

ートフォンで各自情報を得る時代でもありますので、電源の確保など、避難所になる施設を少しずつ整備していきたいと考えています。

菊地市長

いじめ防止について、岩中で作成した CM が大賞をもらったそうですね。市内のいじめの状況について、情報提供をお願いします。

及川参事兼学校教育課長

いじめとして認知しているものは、小学校で 10 件、中学校で 3 件あり、いずれも冷やかしや悪口といったものです。

岩沼市では毎年「教育・いじめ防止フォーラム」を開催しており、本年度も 12 月 19 日に予定しております。市内の全ての小中学校が県で主催している「いじめ防止 CM コンテスト」に応募し、見事、岩沼中学校が最優秀賞になりました。先日、子どもたちと行きましたベカルタ仙台サッカー観戦の際にも、この CM がスタジアムのスクリーンに放映されておりました。楽天のスタジアムでも同様に放映されております。岩沼の子どもたちにとって、大変誇りに思える出来事であったと思います。教育・いじめ防止フォーラムでは、県 CM コンテストに出品した全ての作品を御紹介いたしますので、足を運んでいただければと思います。

菊地市長

いじめに対する思いを外に出す学校ごとの取組は、入賞狙いではなかったと思います。難しい話をするより、自分たちでいじめはダメという CM を作り、お互いに見せ合うことは、いじめを無くそうという思いが皆で同じ方向になったと思いますし、その結果、グランプリを獲ったことはたいしたものです。

避難所について、最初から学校を指定することもできますが、要支援者やお年寄りを板の間に入れるのはいかなものかと考えています。そういった方は、早めに公民館などへ、ある程度の準備をした状態でお引受しています。今回のように何百人も避難するようになると学校も避難所として開設しますが、翌日の授業を考えると、学校にはなる

べく迷惑をかけないように、他の施設で安心して過ごせるようにしたいと思っています。避難しやすい環境づくり、受け皿づくりをしっかりとしていきますし、いざというときのための訓練を行っていきたいと思います。

佐藤委員、お願いします。

佐藤職務代理人

宗教者で教育委員をしている人たちの全国組織があり、年に2回ほど話し合う機会があります。そこでお話すると、岩沼市は、すごく教育も良いし、透明性も高く、住み易いし、とても良いまちだと感じます。ただ、ここに生まれ育っていると、その良さが分からないものです。岩沼市は、その良さを発信する力が弱いように感じています。例えば、二本松市では「子育て日本一のまち」とキャッチコピーをつけ、力を入れて発信しています。岩沼市が、気候も良く、地域的にも恵まれ、社会資源も豊富であることを発信する事は、市民意識を高めることにつながると思います。

避難について、災害種別ごとのあり方を考える必要があると思います。東日本大震災のとき、下野郷地区の人たちは、玉小・玉中が避難所であったためにそこに車で向かい、津波で車がダメになった人が多くいました。また、津波が来るのに東にある避難所に向かう事はおかしなことです。台風19号のときにも、予備避難のときに避難しないで、警報が出てからの移動中に犠牲になった高齢者の方が多くいます。風雨が強いときには、防災放送は聞こえませんが、情報をいち早く得るにはどうしたら良いか、もう一度考える必要があると思います。予備避難に力を入れる必要があるのではないのでしょうか。阿武隈川の堤防が切れそうなときに、高齢者が逃げるためには車を使わなければいけません。日常生活圏において垂直避難できる場所を知っておいて、一時避難ができるよう、民間の活力も利用しながら避難していただき、落ち着いてから広域の避難所に移動するようにできると良いと思います。岩沼市の職員は何人いて、そのうち夜間に招集がかかったときに出でこられる職員は何人いるのでしょうか。そう考えると自助しかないと思います。避難は公助という意識を自助に変えていく、防災についての発信をしていかなければ

ればいけないと思います。避難所には毛布や食料を持っていくことになりませんが、車がなければ難しく、車が走れる状態のうちの避難が大事になります。防災のあり方は多面的なマニュアルを作っていく必要があると思います。

文化芸術祭はどのような趣旨で行われているのか、あまり発信されていないように思います。現代社会の3年は江戸時代の50年に匹敵すると言われており、文化も人の意識も変化がとても早いものです。参加団体が同じということは、それだけ高齢化していますが、若い人が来ても楽しいところだという発信ができていないように思います。

菊地市長

避難所について、学校との連携がこれからの課題になると思われます。要援護者の早めの避難が、まだ浸透していないと思われます。警戒レベル3から5は市が発するのですが、それぞれの意味するところをしっかりと市民の方々にお知らせすることは課題だと思います。台風19号の際には、約900人が避難所に来ましたが、実際はそれ以上の方が隣近所などに移動していると思われます。雨の中動くことは大変危険です。垂直避難も一つの方法ですし、自身の置かれている場所を理解してもらうことが大事になります。我々のPR不足を感じていますので、検討して進化させていきたいと思っています。

沼田生涯学習課長兼スポーツ振興課長

市民交流フェスティバルは公民館の講座やサークルの発表会、文化芸術祭は踊りや茶道など、師匠クラスの方々が披露する場になっています。過去から、このようにクラスの違う発表会が行われており、市民交流フェスティバルの方が参加しやすいようです。

菊地市長

文化芸術祭は、出演者が固定して、来場者が減少してきているように見受けられました。踊りやカラオケなど、年輩になって出られなくなってくる方がいますが、若い人が入ってこないのが減るばかりです。何か新しい人たちが入り込む工夫をしなければいけないと思います。素晴らしい芸能をお持ちの方々が多くいるのですが、活かしきれていないように思いますので、考えていかなければならないと思います。

最後に教育長より、総括的な話をお願いします。

百井教育長

防災対応の市と学校との関わりについてですが、学校が避難所となった際には、施設管理の責任者として教員を出します。学校にすぐ駆けつけられる職員を登録させているので、遠慮なく避難所として開けてかまいませんし、開けたら校舎内と体育館の電気をつけるよう指示しており、そうすれば避難所としての目印になります。避難の初期は雨露を防ぐためですが、次の段階としては教室も開放しますし、子どもがいても学校は大きいので何とか耐えます。市内で大きな施設を恒常的に使い、何十人という職員体制で運営しているところは学校だけですので、このような施設は常に使いやすいと思います。非常災害時にも教育することについて、教員の意志を統一しています。大川小学校の反省にもあったように、学校内、地域の人たち、保護者の間で、避難場所の共通理解を持たせたいと思います。どこに逃げたら家族と会えるのか決めておくことが大事です。学校は市の大きな施設ですので、市と学校は一体です。非常時に県費、市費職員の別は無いと考えています。

部活動支援はこれから益々増やしていくつもりです。文化部にも取り組んでいきます。

学校教育へのコンピューター導入は、30年前に大きな失態をしています。機材を入れても使える教員がほとんどいませんでした。今、ICTが進む中、教員が教えられるように準備をしてから、機材を導入しています。岩沼のように、教員が全員タブレットを持っているところはなかなかありません。これからデジタル教科書も入ってきます。教員がどれだけ使い慣れているかが勝負になります。学校内でも努力していますので、御協力をよろしくお願いします。

文化芸術の振興も意見をいただきながら考えていかなければなりません。

菊地市長

教育環境の流れは、世界レベルに引っ張られていきます。ついていけるか否か、道具を揃えても、扱える先生が限られていては伸びませんので、人材育成が先かと思います。

将来の日本を担う子どもを育てようという大きな流れの中で、教育環境を整備する動きが出始めています。国の動きを見ながらも、使いたいクラスが全員使えるよう、ネットワークを含め、整備していきたいと思います。

百井教育長

岩沼では、各学校に Wi-Fi が入っており、タブレットを使う環境がだいぶ出来上がっています。

及川参事兼学校教育課長

私も岩沼で長年勤めましたが、これだけ教育環境が人の面も物の面でも恵まれているまちは、私が勤めたところでは、岩沼が一番だと思います。給食もそうです。

ICT 活用については、岩沼に勤めている教員は、県全体を自分たちが引っ張っていく意識でいる人が多いかと思います。ICT を用いた授業改善を行う意識が、かなり強いと思います。岩沼から他市町村に異動した教員は、自前で機材を揃えて授業に使っている人もおりますので、市で機材を揃えていただいている事はありがたく思います。今後、校務支援ソフトなどを考えなければいけないとは思いますが、岩沼で教員をした者の中に県全体の ICT 関係を引っ張っていく教員が出てくるのではないかと期待しています。

菊地市長

タイミングを逸しないよう、執行部へ言ってください。

最後にお尋ねしたいことがあります。給食費の無償化について、最近、名取市や利府町が名乗りをあげており、波紋が起きています。議会でも質問があり、私は、基本的に食べる分は、医療、福祉、介護、保育も自分で負担する原則があるので、今は給食の無償化を考えていないと述べました。他の首長も同意見の方が多いようです。もし、給食の無償化をしたら、岩沼では毎年数億掛かるようになります。今、給食費は市の会計に入れずに学校の給食会計の中で納めていただいています。来年度より給食費を値上げすることにしましたが、無償化について、皆さんはどうお考えになりますか。

佐藤職務代理者

受益者負担の原則は明確にしておかなければいけないと思います。給食費へ税金投入をお考えになるのなら、その分を違う環境整備に使ってほしいと思います。もし、やるとすれば、小学1年生の食育に力をいれるために行うべきだと思います。最近話題のところでは、小学6年と中学3年に助成するそうですが疑問です。

南館委員

同意見です。

菊地市長

議会では、無償化を進めてほしいとの意見ではなく、私の考えを聞きたいとのことでした。無償化を進めようとしているところは、幼保無償化等の財源があるとして進めるようですが、岩沼の場合を試算すると手出しが生じ、財源が余る事はありませんでした。簡単に給食費無償化へ進むことはできません。

氏家委員

中学3年生に対する給食費無償化は進学への備えとしてだと思っていました。老朽化しているものなど沢山あるので、財源は今後につながるものに使っていただきたいと思っています。一時的な個人に対してではなく、市全体で共有するようなものに使う方が良いでしょうと思います。

小林委員

同意見です。

菊地市長

本来の形は、受益者負担だと思っています。他自治体の動きを見ていきますが、今は岩沼でやるつもりはありません。

石垣教育次長兼総務課長事務取扱

令和元年度の総合教育会議は今回が最後となります。緊急事項等が生じた場合には適宜開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和元年度第2回総合教育会議を閉会させていただきます。

(午後 4 時 40 分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

教育総務課主幹兼総務係長 山下 真理子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

令和 2 年 2 月 13 日

議事録署名人

佐藤雅晴